

第二期中期目標期間における業務実績報告書（案）

附属資料

平成 30 年 6 月 7 日現在  
公立大学法人  
名古屋市立大学

## 第二期中期目標

前文 大学の基本的な理念 全ての市民が誇りに思う・愛着の持てる大学を目指す

今日の人類社会の共通の課題のひとつは、それ自身がつくりだしたかつてない社会と自然の環境の変化による諸問題を克服し、限りある環境・資源と社会の発展を調和させた持続可能な共生社会を形成することである。

名古屋市を設立団体とする公立大学法人名古屋市立大学は、この持続可能な共生社会の形成の一助となるべく、高等教育研究機関にふさわしい知的創造力を以て、諸課題の解決に全力を挙げて取り組むとともに、こうした取り組みなどを通じ、魅力ある地域社会づくりに貢献することにより、全ての市民が誇りに思う・愛着の持てる大学像を着実に実現し、我がまちナゴヤの大学と実感できるように取り組んでいく使命をもつ。

以上の基本的な理念の下、第一期中期目標期間においては、知の創造と継承をめざして真理を探究し、これに基づく教育を通じて社会に貢献することのできる有為な人材を育成するとともに、広く市民と連携し、地域・国際社会にその成果を還元することに努めてきた。また、科学・技術、芸術・文化、産業・経済の発展と市民福祉の向上に寄与するため、とりわけ市民の健康と福祉の向上と、環境問題の解決への挑戦に、率先して取り組んできた。

第二期中期目標期間においては、第一期中期目標による法人・大学運営の実績を踏まえ、次の教育・研究及び社会貢献活動に率先して取り組む。

- 1 名古屋市立大学は、医・薬・看護の医療系三学部を有する我が国唯一の公立大学として、その特性を活かし、市民の健康と福祉の向上に資する教育研究課題に積極的に取り組む。
- 2 名古屋市立大学は、その教育・研究機能を通じて、その歴史と実績を活かして、次世代育成支援、地球環境の保全と社会環境の整備発展に関わる教育研究課題に重点的に取り組む。
- 3 名古屋市立大学は、名古屋市民によって支えられる市民のための大学であることから、市民等からの寄附を教育研究などに役立てるとともに、市民及び地域への教育研究成果の還元を通じて、名古屋市の行政課題の解決を始めとした地域社会の発展に寄与する。

これらの取り組みを安定して推進する基礎として、名古屋市立大学は教育力、研究力を強化するとともに、それを支える大学の運営基盤を整備する。

### I 中期目標の期間及び教育研究上の基本組織

#### 第1 中期目標の期間

平成24年4月1日から平成30年3月31日までとする。なお、本中期目標を達成するための計画である中期計画を公立大学法人名古屋市立大学が策定するに当たっては、数値目標と実施年度の目標を定めて実施するものとする。

#### 第2 教育研究上の基本組織

名古屋市立大学に、別表に記載する学部及び研究科並びに附属病院及び自然科学研究教育センターを置く。

<別表>

学部	医学部、薬学部、経済学部、人文社会学部、芸術工学部、看護学部
研究科	医学研究科、薬学研究科、経済学研究科、人間文化研究科、芸術工学研究科、看護学研究科、システム自然科学研究科

## 第二期中期目標期間における業務実績報告書(案)評価結果

項目	中期計画 項目数	中期計画 番号	年度評価結果					全体評価
			平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標								
第1 教育に関する目標	45	[1]～[45]	おおむね計画 どおり実施	おおむね計画 どおり実施	おおむね計画 どおり実施	計画どおり 実施	計画どおり 実施	A
第2 研究に関する目標	12	[46]～[57]	おおむね計画 どおり実施	おおむね計画 どおり実施	おおむね計画 どおり実施	計画どおり 実施	計画どおり 実施	A
第3 社会貢献等に関する目標	6	[58]～[63]	B	A	A	A	A	S
第4 大学の国際化に関する目標	4	[64]～[67]	A	A	A	A	A	A
第5 附属病院に関する目標	15	[68]～[82]	A	B	B	A	A	S
II 業務運営の改善及び効率化に関する目標	6	[83]～[88]	A	A	A	A	A	A
III 財務内容の改善に関する目標	7	[89]～[95]	A	A	A	A	A	A
IV 自己点検・評価、情報の提供等に関する目標	5	[96]～[100]	A	A	A	A	A	A
V その他の業務運営に関する重要目標	11	[101]～[111]	B	B	A	A	B	B
合計	111							

**【年度評価】**

- S：特筆すべき進行状況（特に認める場合）
- A：計画どおり（すべてⅢ～Ⅳ）
- B：おおむね計画どおり（Ⅲ～Ⅳが9割以上）
- C：やや遅れている（Ⅲ～Ⅳが9割未満）
- D：重大な改善事項あり（特に認める場合）

**【全体評価】**

- S：中期目標の達成状況が極めて良好である
- A：中期目標の達成状況が良好である
- B：中期目標の達成状況がおおむね良好である
- C：中期目標の達成状況がやや不十分である
- D：中期目標の達成状況が不十分である

<数値目標の状況>

No.	事項	年度	目標	【参考】現状値	24	25	26	27	28	29	
[1]	研究科毎の入学定員充足率*の3年平均 ※入学者数を定員で除したもの	各年度	【大学院修士課程及び博士前期課程】  100%	平成22～24年度入試	平成23～25年度入試	平成24～26年度入試	平成25～27年度入試	平成26～28年度入試	平成27～29年度入試	平成28～30年度入試	
				医学研究科修士課程	86.7%	70.0%	70.0%	63.3%	60.0%	76.7%	83.3%
				薬学研究科博士前期課程	99.1%	99.1%	102.8%	117.6%	117.6%	115.6%	101.7%
				経済学研究科博士前期課程	95.8%	85.8%	76.7%	70.8%	64.2%	65.0%	55.0%
				人間文化研究科博士前期課程	88.0%	92.0%	102.7%	94.7%	84.0%	85.3%	104.2%
				芸術工学研究科博士前期課程	108.0%	89.8%	87.8%	82.2%	75.5%	68.9%	68.9%
				看護学研究科博士前期課程	90.3%	95.8%	97.2%	106.9%	101.4%	90.3%	82.0%
			システム自然科学研究科博士前期課程	88.9%	80.0%	84.5%	91.1%	95.6%	80.0%	73.3%	
			【大学院博士課程及び博士後期課程】  70%を下回る研究科の解消	平成22～24年度入試	平成23～25年度入試	平成24～26年度入試	平成25～27年度入試	平成26～28年度入試	平成27～29年度入試	平成28～30年度入試	
				医学研究科博士課程	80.8%	76.3%	81.4%	91.7%	102.6%	109.0%	96.2%
				薬学研究科博士後期課程	94.7%	100.3%	81.9%	80.5%	66.6%	63.9%	47.2%
				薬学研究科博士課程			155.5%	155.5%	155.5%	127.8%	93.3%
				経済学研究科博士後期課程	36.7%	33.3%	66.7%	60.0%	60.0%	40.0%	33.3%
				人間文化研究科博士後期課程	73.3%	73.3%	93.3%	73.3%	80.0%	60.0%	86.7%
芸術工学研究科博士後期課程	66.7%	73.3%		66.7%	40.0%	40.0%	46.7%	60.0%			
看護学研究科博士後期課程	60.0%	46.7%	46.7%	60.0%	73.3%	53.3%	53.3%				
システム自然科学研究科博士後期課程	86.7%	93.3%	113.3%	106.7%	66.7%	40.0%	33.3%				
[2]	卒業者(就職希望者)の就職率	各年度	100%	(平成23年度)	96.6%	97.5%	99.1%	98.3%	99.5%	99.3%	98.6%
[3]	「授業についてのアンケート」での「総合評価」*の科目平均値 ※総合評価は、1(評価しない)から5(評価する)の5段階で受講生全員に問うもの	各年度	全科目3以上	(平成23年度後期) 3未満の科目数/全科目数	12科目/476科目	15科目/438科目	14科目/490科目	11科目/494科目	1科目/493科目	6科目/495科目	3科目/498科目
[4]	医師、薬剤師、看護師、保健師、助産師国家試験の新卒者合格率	各年度	100%	(平成23年度)							
				医師	96.47%	100%	97.47%	96.6%	97.2%	97.3%	95.7%
				薬剤師	96.15%	89.29%	81.5%	81.0%	92.9%	91.1%	96.8%
				看護師	98.7%	100%	100%	100%	98.7%	98.7%	100%
				保健師	98.7%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
助産師	88.9%	100%	100%	100%	100%	85.7%	100%				
[5]	社会福祉士国家試験の在学中合格者数	各年度	5人	(平成23年度)	5人	2人	5人	5人	10人	8人	9人
[6]	高等学校及び中学校教諭免許の取得件数	各年度	計20件	(平成23年度)	計26件	計16件	計46件	計46件	計22件	計14件	計19件

[7]	幼稚園教諭免許及び保育士資格の取得者数	各年度	計 30 人	(平成 23 年度)	計 16 人	計 12 件	計 27 人	計 18 人	計 25 人	計 27 人	計 25 人
[8]	共同研究及び受託研究の件数(総契約数)	29 年度	270 件	(平成 23 年度)	281 件	273 件	298 件	345 件	413 件	396 件	478 件
[9]	科学研究費助成事業の交付内定件数	29 年度	310 件	(平成 23 年度)	298 件	328 件	351 件	349 件	370 件	382 件	435 件
[10]	科学研究費助成事業未申請の教員の比率	29 年度	9%	(平成 23 年度)	17.8%	9.5%	13.1%	9.6%	9.3%	10.3%	9.7%
[11]	市民公開講座の受講者数	29 年度	750 人	(平成 23 年度)	501 人	507 人	577 人	603 人	730 人	774 人	1,013 人
[12]	学生の海外派遣数	29 年度	65 人	(平成 23 年度)	75 人	47 人	81 人	51 人	46 人	70 人	53 人
[13]	大学間交流協定数	29 年度	25 大学	(平成 24 年 1 月末現在)	22 大学	23 大学	24 大学	25 大学	27 大学	33 大学	39 大学
[14]	地域医療機関からの紹介患者数	29 年度	15,450 人	(平成 23 年度)	15,088 人	15,793 人	17,363 人	18,488 人	20,582 人	20,409 人	21,332 人
[15]	新入院患者数	29 年度	15,850 人	(平成 23 年度)	15,670 人	15,853 人	15,909 人	16,377 人	17,563 人	18,262 人	19,170 人
[16]	後発医薬品の購入推進による費用節減	29 年度	6 年間の累計節減額 90 百万円	(平成 23 年度)	[年間節減額] 21,918 千円	[年間節減額] 18,917 千円	[累積節減額] 33,753 千円 [年間節減額] 14,836 千円	[累積節減額] 49,595 千円 [年間節減額] 15,842 千円	[累積節減額] 64,592 千円 [年間節減額] 14,997 千円	[累積節減額] 169,807 千円 [年間節減額] 105,215 千円	[累積節減額] 202,680 千円 [年間節減額] 32,873 千円
[17]	純資産比率(純資産/負債純資産合計)	各年度	75%以上に維持	(平成 23 年度)	77.9%	78.1%	77.5%	73.9%	73.5%	71.0%	更新中
[18]	流動比率(流動資産/流動負債)	各年度	150%以上に維持	(平成 23 年度)	130.7%	143.5%	153.2%	139.6%	146.0%	142.8%	更新中
[19]	経常利益比率(経常利益/経常収益)	各年度	3%以上に維持	(平成 23 年度)	0.7%	0.2%	0.0%	△0.7%	1.0%	0.3%	更新中
[20]	「預け金」*や「プール金」*などの故意による不適正な会計処理 *預け金:業者に架空取引を指示し、契約した物品が納入されていないのに納入されたなどとして代金を支払い、その支払金を当該業者に管理させるもの *プール金:カラ出張や出勤簿の改ざん等により旅費や謝金等を不正に請求するなどして、その差額等を組織や個人等が管理するもの	各年度	0 件	(平成 23 年度)	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
[21]	大学における自己収入比率* *収入総額から施設整備費補助金、受託研究収入等及び目的積立金取崩等を控除した額に占める自己収入の割合	各年度	対前年度比で プラス	(平成 23 年度)	29.7%	30.9%	32.4%	33.3%	33.6%	35.4%	更新中
[22]	一般管理費比率(一般管理費/業務費)	各年度	対前年度比で マイナス	(平成 23 年度)	2.1%	2.2%	1.8%	1.7%	1.8% (1.81%)	1.8% (1.80%)	更新中
[23]	女性教員比率	29 年度	27%	(平成 24 年 4 月 1 日現在)	19.8%	20.4%	21.5%	22.8%	23.4%	22.4%	22.5%

(注) [1]「研究科毎の入学定員充足率の3年平均」の「29」の実績には、平成 30 年度 10 月入学者数は、未確定のため含まれていない。